

## 台湾華語における助動詞「yǒu(有)」をもつ文の時間的解釈

鄭 雅云 (テイ ヤユン)

京都大学大学院・teoznanazcatl@gmail.com

キーワード：臺灣華語、中国語、閩南語、有+VP

### 1 はじめに

本稿の目的は、台湾で話されている漢語共通語の地域変種である台湾華語に見られる助動詞「yǒu(有)」が、どのような動詞と共起するときに、文全体がどのような時間的意味を表しうるかを明らかにすることである。この助動詞「yǒu(有)」は、漢語共通語の規範にそぐわないものとされているが、台湾華語では、口語レベルでも文章レベルでも頻繁にその使用が観察される。同様の助動詞は、閩語、客家語などをはじめとする漢語南方諸語でも広く見られる。(他の漢語共通語変種と同様に) 漢語北方方言を基盤とした台湾華語では、この助動詞が使用されているのは、漢語南方諸語に属する閩南語との長期にわたる言語接触によると考えられている (cf. Kubler 1985)<sup>1</sup>。

台湾華語の助動詞「yǒu(有)」は、形容詞、状態動詞 (stative verb)、動態動詞 (dynamic verb) のいずれにも先行するが、本稿では「yǒu(有)」が動態動詞に先行する場合のみを扱う。助動詞「yǒu(有)」は、動態動詞 (dynamic verb) と共起した場合、文の時間的意味に寄与することがある。(1) に示す通り、「yǒu(有)」の生起によって発話時以前に起きた特定の出来事が表される (便宜上、これを過去解釈と呼ぶ)。

- (1) *Ta yǒu chī wǔcān.*<sup>2</sup>  
他 有 吃 午餐。  
3SG [有] 食べる 昼ご飯  
‘彼は昼ごはんを食べた。’ (過去解釈)

また、(2) のように、過去の解釈に加え複数の解釈が可能な場合がある。

<sup>1</sup> 漢語共通語が、それまでの日本語に代わって国語として台湾に導入された 1945 年以前、台湾での閩南語話者数は全体の 7~8 割以上を占めていたと考えられる (cf. 黄 1993: 20-1)。現在は、話者数の多い順で言えば、台湾華語、閩南語、客家語、台湾オーストロネシア諸語である。前三者はいずれも漢語系の言語であるが相互理解が困難である。こうした背景のもとで形成された台湾華語は、台湾と中国のそれぞれの言語規範とも、各地域で見られる漢語共通語変種とも、音声韻・語彙・文法などさまざまな面で相違がある。助動詞「yǒu」以外の台湾華語の特異な特徴については、Kubler (1987) や有働 (2009) などを参照されたい。

<sup>2</sup> 台湾華語のローマ字表記は、便宜上「漢語拼音」を用いる。各例の漢字表記は二行目に示す。

- (2) *Ta yǒu chou yān.*  
 他 有 抽 煙。  
 3SG [有] 吸う 煙草  
 ‘彼は煙草を吸った。’ (過去解釈)  
 ‘彼は煙草を吸う。’ (習慣解釈)

以上のように、「yǒu(有)」をもつ文（以下、単に「yǒu」/「yǒu」文と表記することがある）は、共起する動詞句（が表す事象）によって、異なる時間的解釈が可能である。そのため、「yǒu」はかつてテンス・アスペクトを表す形式と考えられていた。近年では、この見方は不適切であるということが多くの研究者の間で共通の見解となっているが（3.1 節で後述）、「yǒu」の中核的な機能や用法は依然として明らかになっていない点が多い。

上記で見た時間的解釈を可能にする「yǒu」の機能とは何かという問題を解明するためには、「yǒu」をもつ文がどのような意味を持っているかを詳細に観察し、記述する必要がある。本稿では、その一環として「yǒu」文の時間的解釈に着目し、閩南語の先行研究における記述を踏まえつつ、以下の2点を示す。

- (i) まず、「yǒu」文は「過去」に加え「習慣」解釈も持つ場合があることについて、共起動詞句の *telicity* との関連から論じられることが多いが、むしろ動詞句の表す事象に対する話者の世界知識が決定的な役割を担っていることを示す。
- (ii) 次に、台湾華語の形成において多大な影響を与えた閩南語では、「yǒu」の閩南語対応形式をもつ文は、(1) (2) で見た「過去」や「習慣」のほかに、「結果状態」や「未来予定」の解釈も許しうることを示唆する記述がある。台湾華語の「yǒu」文でも、後二者の解釈が可能であることと、そのふるまいを示す。

以下、2 節では助動詞「yǒu」の統語的特徴を紹介する。3 節では、先行研究の中でも特に閩南語の対応形式に関するものを中心に概観する。4 節では、台湾華語の実例と作例を挙げながら、上記の2点について考察する。5 節では結論と今後の課題を述べる。

本稿で提示する台湾華語のデータは、断りのない限り台湾華語母語話者である筆者（30代、台北出身、閩南語能力は日常会話以下）の作例と、下記2名の話者の内省による。それぞれ、話者Aにはすべての例、話者Bには一部の例の判断を仰いだ。

表 1：調査協力者の基本情報

話者	性別	年齢	出身	閩南語能力
A	女	30代	台北	話せるが流暢ではない
B	女	20代	台中	流暢

## 2 助動詞「yǒu(有)」の統語的特徴について

本節では、助動詞「yǒu」の統語的特徴を紹介する。まず最初に、「yǒu」は単独で本動詞として使用されうることについて述べておきたい。(3) に示す通り、本動詞として用いられる場合の「yǒu」は、名詞的要素を後続させ、存在・所有を表す。

- (3) *Zhuō shàng yǒu yì běn shū.*  
 桌 上 有 一 本 書。  
 机 上 ある 1 CL 本  
 ‘机の上に一冊の本がある’

一方で、助動詞として用いられる場合の「yǒu」は、基本的には動詞句の後続なしに単独で使用することができない。ただし、動詞が既知の場合は省略可能である (cf. Li & Thompson 1981: 173)。また、既に触れたように、助動詞としての「yǒu」は形容詞と状態動詞を後続させることもできる。本稿ではこの用法は扱わないが、下記の (4) に助動詞「yǒu」と形容詞との共起例を示しておく。

- (4) *Nǐ nán péngyǒu yǒu shuài ye!*  
 你 男 朋友 有 帥 耶!  
 2SG 男 友達 [有] ハンサム SFP  
 ‘彼氏さん、かっこいいね! (悪くないね!)’

助動詞「yǒu」と同じ位置に生起可能な要素には、他に「huì(會)‘能力・可能・習慣」、*kěyǐ*(可以)‘許可」、*néng*(能)‘可能」、*kěn*(肯)‘～する意思がある」、*gǎn*(敢)‘～する勇気がある’などの、モダリティを表す助動詞がある。(5) に「huì(會)」の用例を示す。

- (5) *Nǐ zhǐ chuān zhèyàng huì gǎnmào o!*  
 你 只 穿 這樣 會 感冒 喔!  
 2SG ただ 着る この様 (可能) 風邪を引く SFP  
 ‘これだけを着るなんて風邪を引くよ!’

「yǒu」を含めた台湾華語の助動詞に共通する統語的特徴として、次の 4 点を挙げるができる。第一に、台湾華語では、動詞句を後続させることができる一部の動詞や準助動詞は、後続動詞 (あるいは形容詞) と異なる主語をとることができるが、助動詞はそれができない。第二に、副詞や前置詞句が、助動詞の前や助動詞と動詞の間に生起しうる。(6) に「yǒu」と動詞の間に前置詞句が生起している例を示す。

- (6) *Wǒ jīntiān yǒu gēn tā chūqù chīfàn.*  
 我 今天 有 跟 他 出去 吃飯。  
 1SG 今日 [有] 共に 3SG 出かける 食事する  
 ‘今日は彼と一緒に外食をした。’

第三に、助動詞を用いた場合の疑問文の作り方については、動詞・形容詞と同様に、肯定形と否定形を並べて極性疑問文を形成できる。返答の際は、(a) 助動詞のみの形、(b) (主語+) 助動詞+動詞の形、(c) 主語+助動詞のみの形、という 3 つのパターンが可能である。(7) に「yǒu」を用いた極性疑問文とそれに対する返答文 (パターン a+b) の例を挙げる。

- (7) Q: *Nǐ jīntiān yǒu méi yǒu chī zǎocān?*  
 你 今天 有 沒 有 吃 早餐?  
 2SG 今日 [有] NEG [有] 食べる 朝食  
 ‘(あなたは) 今日朝ごはん食べた?’  
 A: *Yǒu a. (Wǒ) yǒu chī.*  
 有 啊。(我) 有 吃。  
 [有] SFP 1SG [有] 食べる  
 ‘うん。(私) 食べた。’

また、極性疑問文は疑問助詞を文末に付加することによっても形成することができる。(8) はその例である。

- (8) *Nǐ jīntiān yǒu chī zǎocān ma?*  
 你 今天 有 吃 早餐 嗎?  
 3SG 今日 [有] 食べる 朝食 Q  
 ‘(あなたは) 今日朝ごはん食べた?’

最後に、助動詞とアスペクト形式の共起関係について述べる。助動詞自体はアスペクト形式を伴うことはできないが、後続動詞の前には「zài(在)‘進行」、後には「le(了)‘完結」、  
 「guò(過)‘経験」、  
 「zhe(著)‘持続」といったアスペクト形式が生起しうる。ただし、これらの 4 形式全てと共起可能なのは、「yǒu」と「huì(會)」のみである。これら以外の助動詞は、4 つのうちの「le(了)」と「zhe(著)」としか共起しない。(9) の通り、「yǒu」とアスペクト形式が共起した場合、文全体の時間的意味は、基本的にはアスペクト形式によって決まる<sup>3</sup>。本稿の目的から外れるため、本稿では、アスペクト形式が現れる「yǒu」文については扱わない。

<sup>3</sup> 「yǒu」と進行を表す「zài(在)」と共起する場合、文は進行のほかにある種の「習慣」も表すことができる。この現象については今後の課題としたい。

(9) *Xiǎoyīng yǒu qù guò rìběn.*

小英 有 去 過 日本。

(人名) [有] 行く EXP (国名)

‘英ちゃんは日本に行ったことがある。’

### 3 先行研究

本節では、台湾閩南語（以下、閩南語）を対象とした研究を中心に紹介するが、台湾客家語（以下、客家語）と台湾華語を対象とした研究にも触れる。本稿が問題とする助動詞の音形がこの 3 つの言語で異なるため、以降、台湾華語の当該形式のみを指す場合は「yǒu」と表記、閩南語や客家語の当該形式を指す場合は「有」と表記する。

以下、3.1 節では、先行研究で提案されている助動詞「yǒu/有」の意味機能を確認し、3.2 節では「yǒu/有」文の時間的解釈に関する先行研究を紹介する。

#### 3.1 「yǒu」または「有」の意味機能

本稿では、「yǒu」または「有」の中核的な意味機能については考察しないが、これまで先行研究では、以下のようなことが指摘されている。

「yǒu/有」は、かつてテンス・アスペクトを示す機能があるとされていたが、「yǒu/有」が現在と過去のどちらの文脈にも現れるうえに、すべてのアスペクト形式と共起できることから、その説が退けられ、現在は *realis marker* 説が有力のようである (cf. 曹 1998、遠藤 2014、蔡 2010 など)。しかし、鄭 (2019) で指摘されているように、「yǒu/有」が条件節や極性疑問文に生起しうることを考慮すると、*realis marker* 説にも再考の余地があると考えられる。

「yǒu/有」の意味については、これまでに多くの見解があるが、代表的なものとしては「ある状態・出来事の確かな存在あるいは発生を表す」(閩南語研究：曹 1998: 329) や、「已然」(台湾華語研究：蔡 2010) や、「話者がある事態が実現済み (*realis*) であると判断していることを表す」(客家語研究：遠藤 2014: 89) などが挙げられる。

以上が、「yǒu/有」の意味機能に関する先行研究の要点である。次節では閩南語・台湾華語・客家語の先行研究で記述されている「有」文の時間的解釈について紹介する。

#### 3.2 先行研究で記述されている「有」文の時間的解釈

##### 3.2.1 閩南語を対象とした研究

ここでは、主に中嶋 (1979)、村上 (1990)、曹 (1998)、Wu & Zheng (2018) の記述を取り上げる。閩南語の「有」が動態動詞と共起したときに文全体で可能な解釈について、4 つの研究の記述を表 2 にまとめた。また、それぞれの研究が主張する「有」の機能も最後の列に示しておく。

表 2: 先行研究における閩南語「有」文の時間的解釈

先行研究	解釈 1	解釈 2	解釈 3	「有」の機能
中嶋 (1979)	現在あるいは過去の 長期間の習慣的動作	現在あるいは過去 の継続的状态	—	aspect (imperfective)
村上 (1990)	規則的反复	過去性	未来	存在動詞
曹 (1998)	確実に発生・実現 (完整貌)	習慣	—	modality (realis)
Wu & Zheng (2018)	Past reading	Characterizing reading (a characteristic or a habit of the subjects)	—	epistemic necessity modal

それぞれの研究での用語は異なるが、おおむね「過去」「習慣」「(結果)状態」「未来(予定)」の4つの解釈にまとめられよう。以下、それぞれについて詳しく見ていく。

### ■過去解釈

まず、過去解釈について述べる。この解釈についての記述は、初期の辞書から最近の辞書まで一貫して確認できる。例えば、台湾総督府 (1931) では、(10) の例とともに「過去」という意味が記されている。また、2011 年に正式公開されたオンライン辞書「教育部臺灣閩南語常用詞辭典」でも、「有」の一つの意味に「過去に発生したことを表す」がある。

- (10) *lí ū khi --bô?*<sup>4</sup>  
 2SG [有] 行く NEG/Q  
 ‘汝 (おまへ) は行ったか?’

(台湾総督府 1931: 107)

曹 (1998) の記述によれば、過去解釈は、ほとんどどのような動態動詞が用いられても可能である。(10) では変化動詞が用いられているが、下記に動作動詞が用いられている「有」文の例も示しておく。ただし、非限界的動詞が用いられている場合について、曹 (1998: 322-3) は「事態が発話時以前に発生・実現したことを表すが、必ずしも事態が完成・終了したことを意味しない」と述べている ((12) を参照)。

<sup>4</sup> 閩南語の例は、グロスとローマ字表記を統一するため、一部改変している。ローマ字表記は「臺灣閩南語羅馬字拼音方案」に沿って行う。断りのない限り、日本語訳あるいは英語訳は引用先そのままである。なお、引用先では漢字表記となっているものについては、筆者が「教育部臺灣閩南語常用詞辭典」に基づいてローマ字表記を付した。

- (11) *Guá ū siá tsit pún tshéh.*  
 1SG [有] 書く 1 CL 本  
 ‘I indeed wrote a book.’

(Wu & Zheng 2018: 414)

- (12) *Tâi-tâi guā-bûn hē tsit hák-kí khai-sí ā ū khui Tâi-gí khò.*  
 (学校名) 外国語 学科 この 学期 開始 も [有] 開く 台湾語 授業  
 ‘台湾大学の外国語学科は今学期から台湾語授業も開講した (している)’

(曹 1998: 322、日本語訳は筆者)

### ■習慣解釈

次に、4つの先行研究に共通して見られる習慣解釈について述べる。習慣解釈は過去解釈に次いで先行研究で多く取り上げられてきた解釈である。(13)の通り、1節に示した台湾華語の例(2)と同様に、閩南語の「有」文でも過去解釈のほかに習慣解釈も可能な場合がある。

- (13) *I ū tsiah gū-bah.*  
 3SG [有] 食べる 牛肉  
 ‘He is a beef-eater.’ (習慣解釈)  
 ‘He ate the beef.’ (過去解釈)

(曹 1998: 326)

どのような場合に「有」文が習慣解釈を許すかについては、「有」に後続する動詞句の *telicity* との関連から論じられることが多い。例えば、Wu & Zheng (2018) では、「有」文が過去と習慣のどちらとも解釈されうるのは、動詞句の表す事態が *dynamic* かつ *atelic* な場合であると主張されている。ただし、(14)の通り、動詞句の表す事態が *dynamic* で *atelic* であっても、それが習慣らしくないものの場合、過去としか解釈されず、習慣を表すためには頻度副詞などの助けが必要である、とも述べられている。

- (14) a. *I ū mā sian-sinn.*  
 3SG [有] 罵る 先生  
 ‘He scolded the/a teacher.’  
 b. *I ū tiānn-tiānn mā sian-sin.*  
 3SG [有] よく 罵る 先生  
 ‘He often scolds the/a teacher.’

(Wu & Zheng 2018: 417)

しかし、Wu & Zheng (2018) の主張には少なくとも二つの問題点がある。一つは、(14a) の例の存在だけでも、動詞句の *telicity* は「習慣」解釈を予測する上では有効ではないことが明らかであるということである。さらに 4.1 節で詳述するように *telic* な動詞句をもつ「有」文が習慣解釈を許す例が存在する。もう一つは、頻度副詞によって表される「習慣」と、そういった要素を付加しなくても読み取れる「習慣」を区別していないということである。これらを区別する必要性についても、後の 4.1 節で詳述する。

### ■結果状態解釈と未来予定解釈

最後に「結果状態」と「未来予定」について述べる。これまで見てきた過去解釈と習慣解釈とは異なり、この二つの解釈に言及した研究はわずかしかない。

まずは結果状態解釈の例を示す。中嶋 (1979) では、「有」は動詞の相を継続性のある静止相にシフトさせる機能を持つと主張されており、(15) は「現在あるいは過去の一定期間にわたる状態」を表すとされている。

(15) a. *I ũ tŋg--lái --bó?*  
 3SG [有] 帰ってくる NEG/Q  
 ‘彼(彼女)は 帰ってきている／帰ってきていた か?’

b. *I ũ kiat-hun --bó?*  
 3SG [有] 結婚 NEG/Q  
 ‘彼(あるいは彼女)は 結婚している／結婚していた のですか?’

(中嶋 1979: 79-80)

中嶋 (1979) の説明やそれぞれの例に付された日本語訳を参考にすると中嶋 (1979) の言う「状態」とは「結果状態」のことと考えられる。中嶋 (1979) は動詞の種類についての言及はないが、そこで挙げられている同様の例は、すべて変化局面をもつ動詞である。

次に未来予定解釈の例を示す。このような例について、村上 (1990) は「今までも規則的反复の動作が行われていたというような条件があれば、“未来”の表現が可能になる」と説明している。

(16) *I bŋn-á-tsài ũ lái.*  
 3SG 明日 [有] 来る  
 ‘彼(彼女)は明日来ることになっている。’

(村上 1990: 6、日本語訳は (17) を参考した)

同様の例は王 (1957) でも見られるが、これについての詳細な説明はない。その例を (17) に示す。王 (1957) が (17) に与えた例を考慮すると、村上 (1990) の言う「未来」とは「未来予定」のことと考えたほうが適切かもしれない。そして、二例とも移動に関する動



詞が用いられていることに注目されたい。台湾華語でも「yǒu」文で未来予定を述べられるが、(16) (17) のような例は容認されない。これについては 4.3 節で後述する。

- (17) *I bîn-á-tsài ū lái.*  
 3SG 明日 [有] 来る  
 ‘彼（彼女）は明日来ることになっている。’

(王 1957: 295)

### 3.2.2 客家語・台湾華語を対象とした研究

本節では、客家語の研究として遠藤 (2014) の記述、台湾華語の研究として蔡 (2010) の記述をそれぞれ紹介する。

遠藤 (2014) では、台湾客家語の海陸方言の「有」が発話時以前に起きた事態を表す場合（過去解釈）と、未来時間を示す副詞との共起可否について述べられている。(18) の通り、客家語海陸方言の「有」は、認識モダリティを示す要素との共起があれば、未来時間を示す副詞と共起可能のようである。習慣解釈については、「毎日」のような頻度副詞と共起できるとしか述べられておらず、(2) (13) のような用法があるかどうかは不明である。

- (18) a. \**thien53koŋ53ŋit5 lia55 kai21 ji55tsiet5 ki55 ziu53 to21 thoi55pet5*  
 明日                      これ CL      とき              3SG      [有]      着く (地名)  
 b. *thien53koŋ53ŋit5 lia55 kai21 ji55tsiet5 ki55 zin21koi53 ziu53 to21 thoi55pet5*  
 明日                      これ CL      とき              3SG      はずだ      [有]      着く (地名)  
 ‘明日の今ごろ彼／彼女は台北に着いているはずだ。’

(遠藤 2014: 99、グロス一部改変)

最後に、本稿の対象言語である台湾華語を扱った先行研究を取り上げる。表 3 にまとめるように、蔡 (2010) は、台湾華語の「yǒu」文の時間的解釈として「過去」と「習慣」を挙げている。Wu & Zheng (2018) と同様に、ここでも動詞句の telicity の観点から説明がなされている。

表 3 : 先行研究における「yǒu」文の時間的解釈 (蔡 2010: 70-1)

動詞句の指し示す事態	「yǒu」をもつ文の時間的解釈
終結点を伴う動的事態 (Accomplishment, Achievement)	a. 発話時以前に動作が発生した (そして、完成あるいは終了した)
終結点を伴わない動的事態 (Activity)	b. 習慣、断続的な持続 (文脈があれば a の解釈を可能)

また、蔡 (2010: 89) では、「yǒu」文では未来を示す時間副詞を用いられないという記述があったが、これは本稿 4.3 節で提示する言語事実に即さないものとなっている。そして、一部の閩南語研究で記述されている結果状態解釈については触れられていない。

### 3.2.3 小括

以上、閩南語・台湾華語・客家語の先行研究で記述された「yǒu/有」文の時間的解釈を「過去」「習慣」「結果状態」「未来予定」の 4 つに分けて見てきた。上記の先行研究に共通していた記述は、「過去」と「習慣」の解釈についてである。そして、どのような場合に「yǒu/有」文が「習慣」と解釈されうるかに関しては、動詞句の *telicity* の観点から説明されていた。閩南語と客家語では、「有」文の可能な解釈として、さらに「結果状態」と「未来予定」も挙げられているが、台湾華語の先行研究では後者については不可とされており、前者については言及されていなかった。

また、前述から、「yǒu/有」文の基本的な解釈は「過去」と言っても良いと考えられる。そのため、次の 4 節では「過去」以外に、「yǒu/有」が表し得る「習慣」「結果状態」「未来予定」に着目し、「過去」を除くこれら 3 つを中心とした考察を行う。

## 4 台湾華語の「yǒu」文の時間的解釈について

### 4.1 習慣解釈をめぐって

4.1 節では、台湾華語の「yǒu」文が「どのような場合に習慣と解釈されうるか」について、先行研究の主張を問題視しながら考察する。

#### 4.1.1 二種類の「習慣」：「反復」と「属性」

まず、本稿で扱う「yǒu」文の「習慣」解釈について述べる。下記 (19) のような例は、過去だけでなく習慣も表しうる「yǒu」文の典型的な例として、多くの先行研究で取り上げられてきた (蔡 2010、cf. 曹 1998、Wu & Zheng 2018 など)。1 節の (2) も同様の例である。

- (19) *Tā yǒu chī niúròu.*  
 他 有 吃 牛肉。  
 3SG [有] 食べる 牛肉  
 ‘彼は牛肉を食べる。’ (習慣解釈)  
 ‘彼は牛肉を食べた。’ (過去解釈)

そして、(20a) のように頻度を表す量化副詞と共起している例も、先行研究では習慣を表すとされている (cf. Wu & Zheng 2018、蔡 2010)。しかし、このような例は、頻度副詞を外すと、(20b) のように過去解釈に限られる場合がある。なお、(20) は、3.2 節に示した Wu & Zheng (2018) の閩南語の例 (14) に対応している。

(20) a. *Tā yǒu chángcháng mà lǎoshī.* (= (14b) に相当する台湾華語の例)  
 他 有 常常 罵 老師。  
 3SG [有] よく 罵る 先生  
 ‘彼はよく先生を罵る。’ (習慣解釈)

b. *Tā yǒu mà lǎoshī.* (= (14a) に相当する台湾華語の例)  
 他 有 罵 老師。  
 3SG [有] 罵る 先生  
 ‘\*彼は先生を罵る。’  
 ‘彼は先生を罵った。’ (過去解釈)

つまり、先行研究は (19) と (20a) のどちらも「習慣」を表すとしているが、この二例で表される「習慣」の性質は異なると考えられる。両者の違いは、下記の (21) で確認できる。(21) では、(19) (20a) に事態の反復を否定するような文脈を後続させている。(21a) は自然であるのに対し、頻度副詞が用いられている (21b) は容認不可である。

(21) a. *Wǒ yǒu chī niúròu. Dànshì jīběn shàng bù chī.*  
 我 有 吃 牛肉。 但是 基本 上 不 吃。  
 1SG [有] 食べる 牛肉 然し 基本 上 NEG 食べる  
 ‘私は牛肉を食べるが、基本的には食べない。’

b. *??Tā yǒu chángcháng mà lǎoshī. Dànshì jīběn shàng bú mà.*  
 ???他 有 常常 罵 老師。 但是 基本 上 不 罵。  
 3SG [有] よく 罵る 先生 然し 基本 上 NEG 罵る  
 ‘彼はよく先生を罵るが、基本的には罵らない。’

(21) から、頻度副詞を伴わない「yǒu」文で表されている「習慣」は、事態の複数事例 (instance) の存在を示唆するが、「事態の規則的な多数回生起 (つまり、一般語彙として理解される習慣)」を含意しないことが分かる。

このように、先行研究で用いられてきた「習慣」という用語には、次のような区別すべき二種類の異なる概念が含まれていると考えられる。まず、頻度副詞の付加によって表される (20a) の「習慣」は「異なる複数の場面にわたる事態の(規則的な)繰り返し (反復)」と言い換えられよう。それに対し、頻度副詞を必要としない (19) や (2) の「習慣」は「異なる複数の場面にわたってどの時点においても確認できる主体の特徴や行動パターン (属性)」として記述したほうが適切と思われる。反復の叙述では、個々の事例が文の叙述する対象となるのに対し、属性の叙述では、実際の事例に基づき主体の一般化や特徴付けが行われるが、具体的な個別事例は直接言及されない。

本節では、頻度副詞が生起しない「yǒu」文が表す「習慣」は属性と記述することができ、反復という意味での「習慣」とは区別されるべきものであるということを指摘した。次節

より、頻度副詞が生起する「yǒu」文を議論の対象外とし、属性解釈をもつ「yǒu」文を議論の中心とする。

#### 4.1.2 「yǒu」文の属性解釈と動詞句の telicity

既に 3.2 節で述べたように、先行研究は、属性解釈が持ちうるのは atelic な動詞句が用いられている「yǒu」文であると主張していた (Wu & Zheng 2018、蔡 2010)。下記の二例だけを見れば、確かに atelic な動詞句をもつ (22) は属性解釈を許すのに対し、telic な動詞句をもつ (23) は属性解釈を許さない。

- (22) *Ta yǒu chou yān.*  
 他 有 抽 煙。  
 3SG [有] 吸う 煙草  
 ‘彼は煙草を吸う (人だ)。’ (属性解釈)  
 ‘彼は煙草を吸った。’ (過去解釈)

- (23) *Ta yǒu chou yì gēn yān.*  
 他 有 抽 一 根 煙。  
 3SG [有] 吸う 1 CL 煙草  
 ‘\*彼は一本の煙草を吸う (人だ)。’  
 ‘彼は一本の煙草を吸った。’ (過去解釈)

しかし、Wu & Zheng (2018) 自身も指摘している通り、動詞句が atelic であることは、必ずしも「yǒu」文の属性解釈を保証できない ((14) を参照)。さらに、(24) に示す通り、telic な動詞句をもつにも関わらず属性解釈が可能な例が存在する。なお、この例は異なる文脈を設定すれば、発話時以前に起きた特定の出来事を尋ねる解釈 (過去解釈) も可能である。

- (24) [Context: 自分がどれほどの声優ファンかという話題の中で聞かれて]<sup>5</sup>  
*Nà nǐ yǒu mǎi shēngyōu zázhì ma?*  
 那 你 有 買 聲優 雜誌 嗎?  
 では 2SG [有] 買う 声優 雜誌 Q  
 ‘じゃ、あなたは声優雑誌を買う (人) ?’

<sup>5</sup> 調査協力者 B はこの例を容認しなかったが、たまたまその場に居合わせた別の母語話者が容認可能とした。調査協力者 B が容認不可とした理由については、(声優) ファンの生態に対する理解度が影響しているのではないかと推測している。なお、次のホームページに、似た文脈で使用されている実例が見られる：<https://www.ptt.cc/bbs/seiyuu/M.1097779316.A.F66.html>。そこでは「声優雑誌を購読している」という日本語を「有買聲優雜誌嗎？」に訳している。

そして、次に示す (25) も、telic な動詞句が用いられているが、特定の出来事を述べるのではないことから属性を表すことが分かる。

- (25) *Liùsì hào gōngchē yǒu dào táiběi chēzhàn ma?*<sup>6</sup>  
 644 號 公車 有 到 台北 車站 嗎?  
 644 号 バス [有] 至る (地名) 駅 Q  
 ‘644号バスは、台北駅に行く(バス)?’

以上のことを考慮すると、「yǒu」文で属性解釈が可能となる要因を動詞句の telicity に求めることは適切ではないと言える。本稿では、「yǒu」文の属性解釈の成立可否には、動詞句の表す事態の telicity ではなく、その事態が「異なる複数場面での生起が想定されやすいものかどうか」が関わっていると考えられる。

ここまで見てきた属性解釈が可能な例は、動詞句の表す事態はすべて「目的語（位置に現れる語）が指し示すものに（異なる場面にまたがって）何度も働きかけられる」という性質をもつものである。このような性質こそが、ある事態を「主体の特徴や行動パターン」として叙述することを可能にしていると考えられる。例えば、(25) の「特定の駅に行く」という事態は、異なる場面で何度も起こり得るものである。同様に、(19) (22) (24) の動詞句は、いずれも「○○という種類のもの<sup>7</sup>への働きかけ（食べる・吸う・買う）」という何度も起こり得る事態を表している。このように考えると、(23) が過去解釈しか持たないのは、「ある特定の一本の煙草を吸う」という事態は、通常は、何度も起こることができないため（吸い終わった煙草をもう一度吸うことができないため）ということになる。

ただし、複数場面での生起が可能であっても非日常性、偶発性が高い事態の場合（例えば「Mac を買う」「友人の家に行く」など）、過去解釈が優先され、属性と解釈されにくいことがある。それは、主体の行動パターンとして叙述する文脈より、具体的な特定の出来事として叙述する文脈のほうが想起されやすいためであると考えられる。Wu & Zheng (2018) で取り上げた (14a) や (20b) もこのような例に該当する。

## 4.2 結果状態解釈をめぐって

閩南語の「有」文では、変化動詞が用いられる場合、結果状態が表されることが報告されているが（中嶋 1979）、台湾華語の「yǒu」文でもそのような解釈が可能かどうかに関しては、従来ほとんど議論されてこなかった。この節では、「yǒu」文の結果状態解釈について考察し、

<sup>6</sup> この例では過去解釈が難しいが、それはバスに関する話者の世界知識に起因すると思われる。

<sup>7</sup> (19) (22) (24) の目的語名詞句はいずれも裸の形をとっている。漢語（共通語）の裸名詞は、特定の個体を問題にせず、各々の個体が属するより上位概念的なカテゴリーとしての「類 (kind)」を指示すると言われている (cf. 刘 2002)。また、照応的に用いられる場合は、定名詞句として働く (大河内 1985: 8)。一方で、後述する (23) で見る「(数詞+)類別詞」がついた名詞句は、典型的には個別的・具体的な特定「個体 (specific individual)」を指示する (cf. 大河内 1985)。

「*yǒu*」文は、共起する変化動詞によって、結果状態を表すと考えられる場合があるものの、過去解釈しか持たないと見るべき場合が多い」ことを示していく。

まず、言語事実として、変化動詞が用いられている「*yǒu*」文は、変化の結果としての状態が存在している状況にも用いられるし、結果状態が存在していない状況にも用いられる。このことは、(26) の a の質問の答えとして、b 文も c 文も用いられることから分かる。

- (26) a. Q : *Nǐmen lǎobǎn yǒu lái ma?*  
 你們 老闆 有 來 嗎?  
 2PL ボス [有] 来る Q  
 ‘あなたたちの店長は来た (／来ている) ?’
- b. A : *Yǒu a. Yǒu lái a. Wǒ qù jiào tā.*  
 有 啊。有 來 啊。我 去 叫 他。  
 [有] SFP [有] 来る SFP 1SG 行く 呼ぶ 3SG  
 ‘はい。来た (／来ている) よ。呼んであげるね。’
- c. A' : *Yǒu lái a. Dàn yǐjīng zǒu le ye.*  
 有 來 啊。但 已經 走 了 耶。  
 [有] 来る SFP 然し もう 離れる PFV SFP  
 ‘はい。来たよ。しかしもう帰ったんだよ。’

仮に、(26b) のような場合の「*yǒu*」文が、過去の変化ではなく結果状態を表すのであれば、「まだ」を表す「*hái*(還)」との共起は許されるはずである<sup>8</sup>が、(27) の通り、実際には共起できないことから、少なくとも「来る」という動詞を用いた「*yǒu*」文は、結果状態解釈を持たないと考えられる。なお、(27) の容認性は主体を人間に変えても変わらない。

- (27) #*Xiànzài táifēng hái yǒu lái. Suǒyǐ bù néng chūmén.*  
 #現在 颱風 還 有 來。(所以 不 能 出門。)  
 今 台風 まだ [有] 来る だから NEG (可能) 出かける  
 ‘(intended for) 今はまだ台風が来ている。(だから外には出かけられない。)’<sup>9</sup>

(28) から (31) には、他の変化動詞を用いた「*yǒu*」文の例を示す。

<sup>8</sup> Nedjalkov & Jaxontov (1988: 15) では、「まだ」を表す副詞は、一時的状態を表す結果相 (resultative) と自由に共起できることが指摘されている。

<sup>9</sup> 「今でも来ることがある」のような反復の意味ならば容認可能である。このことは次に述べる (28b) も同様である。

- (28) a. *Xiǎofàn yǒu qù gōngsī.*  
 小范 有 去 公司。  
 (人名) [有] 行く 会社  
 ‘彼は会社に行った。’
- b. #*Xiǎofàn (xiànzài) hái yǒu qù gōngsī.*  
 #小范 (現在) 還 有 去 公司。  
 (人名) 今 まだ [有] 行く 会社  
 ‘(intended for) 彼は (今) まだ会社に行っている。(そこにいる)’
- (29) a. *Tāmen yǒu jiéhūn.*  
 他們 有 結婚。  
 3PL [有] 結婚  
 ‘彼らは結婚した (／結婚している) 。”
- b. *??tāmen (xiànzài) hái yǒu jiéhūn.*  
 ???他們 (現在) 還 有 結婚。  
 3PL 今 まだ [有] 結婚  
 ‘(intended for) 彼らは (今) まだ結婚している。’
- (30) a. *Sùshè chuānghù yǒu pò ma?*  
 宿舍 窗戶 有 破 嗎?  
 寮 窓 [有] 破れる/割れる Q  
 ‘寮の窓は割れた (／割れている) ?’
- b. *?Sùshè chuānghù (xiànzài) hái yǒu pò ma?*  
 ?宿舍 窗戶 (現在) 還 有 破 嗎?  
 寮 窓 今 まだ [有] 破れる/割れる Q  
 ‘(intended for) 寮の窓は (今) まだ割れている?’
- (31) a. *Yángmíngshān shàngmiàn de huā yǒu kāi o.*  
 陽明山 上面 的 花 有 開 喔。  
 (地名) 上 の 花 [有] 咲く SFP  
 ‘陽明山の花は咲いた (／咲いている) よ。’
- b. *Yángmíngshān shàngmiàn de huā (xiànzài) hái yǒu kāi o.*  
 陽明山 上面 的 花 (現在) 還 有 開 喔。  
 (地名) 上 の 花 今 まだ [有] 咲く SFP  
 ‘陽明山の花は (今) まだ咲いているよ。’

上記各例の b 文から、共起する変化動詞によって、「yǒu」文と「hái(還)‘まだ’」との共起のしやすさが少しずつ異なることが分かる。まず、この共起が最も不自然と判断されているのは「来る」と「行く」のような移動に関する動詞が用いられた場合である。一方で、「hái(還)‘まだ’」との共起が自然な表現として容認される例は、現時点では「咲く」という動詞を用いた 1 例のみで確認できた。そして、(30b) に示した「破れる／割れる」という動詞を用いた「yǒu」文は、「hái(還)‘まだ’」とはやや共起しにくいことから、過去変化のほうがより自然な解釈と考えられるが、(32) の通り、過去の特定時点を表す表現と共起する場合、過去（変化）解釈も、結果状態解釈も許しうる。

(32) a. [Context: バスの事故で鞆をなくした乗客へのインタビュー]

Nǐ fāxiàn de shíhòu, nǐ chuānghù yǒu pòdiào ma?  
 你 發 現 的 時 候, 你 窗 戶 有 破 掉 嗎?  
 2SG 気づくの時 2SG 窓 [有] 割れてしまう Q

‘あなたが（鞆がなくなっていたと）気づいた時、（横）の窓は割れていたか?’  
 （結果状態解釈の例）

(<https://www.youtube.com/watch?v=ZO81-lSe5gk>より)

2020年2月29日最終確認)

b. [Context: 心理学的実験において事故の映像を見た後に聞かれた質問]

Liǎng liàng chē zhuàngshàng shí, dǎngfēngbōli yǒu méi yǒu pò?  
 兩 輛 車 撞 上 時, 擋 風 玻 璃 有 沒 有 破 ?  
 2 CL 車 ぶつかる 時 フロントガラス [有] NEG [有] 割れる

‘二台の車が衝突した時、フロントガラスは割れたか?’

（過去解釈の例）

([https://www.books.com.tw/web/sys\\_serialtext/?item=0010776847&page=2](https://www.books.com.tw/web/sys_serialtext/?item=0010776847&page=2)より)

2020年2月29日最終確認)

(32a) は、主体が気づいた時に、すでに窓が割れている状態だったかを尋ねていると解釈されることから、結果状態を表すと言える。それに対し、(32b) は、その時に窓が破れていない状態から割れた状態になったかを尋ねていることから、過去の変化を表すことがわかる。つまり、(32b) には、車が衝突した時にすでに窓が割れている状態だったかを尋ねている、とは解釈されないであろう。

以上から、台湾華語の「yǒu」文では、変化動詞が用いられている場合、結果状態解釈が可能な場合があるということが分かる。ただし、変化動詞によってその解釈のしやすさは一律ではない。ここで挙げた例を見る限り、「yǒu」文では、「咲く」「割れる／破れる」のようにモノの状態変化を表す動詞が用いられる場合、結果状態解釈を許しやすいかもしれない。



## 4.3 未来予定解釈をめぐって

この節では「未来の予定」を述べる「yǒu」文について記述する。閩南語と客家語の「有」文には未来を示す副詞が生起可能ということは、先行研究で報告されている(3.2節を参照)。しかし管見の限り、台湾華語の「yǒu」文に関しては、ほとんど記述が見られない。

台湾華語では、未来に起きる事態を述べるのに助動詞「hui」などを用いるのが一般的であるが、以下の通り、「yǒu」を用いて未来の予定を述べることがある。

(33) *Míngtiān yǒu fang táifēng jià<sup>10</sup> ma?*

明天 有 放 颱風 假 嗎?

明日 [有] 放す 台風 休み Q

‘明日は台風休みになっている?’

(34) *Lín yīshēng hòutiān yǒu kànzhěn ma?*

林 醫生 後天 有 看診 嗎?

(姓) 医者 明後日 [有] 診察 Q

‘林先生は明後日は診察しますか?’

(35) *Qǐng wèn míngtiān qù chōngshéng de bānjī yǒu fēi ma?*

請 問 明天 去 沖繩 的 班機 有 飛 嗎?

請う 問う 明日 行く (地名) の フライト [有] 飛ぶ Q

‘すみません。明日の沖繩行きのフライトは飛びますか?’

上記の例の他に、「kāi(開)‘開く’」という動詞を用いて店の営業予定を、「chūlái(出來)‘出る’」という動詞を用いて屋台の出店予定などを述べる際にも「yǒu」文がよく用いられる。

「yǒu」文によって述べられる未来の予定の特徴として、i.) カレンダー上の既決事項であること、ii.) 話者や聞き手などの意思によって容易には変更されないことが挙げられる。よって、「yǒu」文で述べられている未来の予定は個人に関わる事柄よりも会社、公的な機関などの団体に関わる事柄の方が多い。したがって(36)の通り、実現が不確実の事態や個人的な予定を述べる場合、「yǒu」文は用いられない。この2つの特徴は、どちらも閩南語と客家語の先行研究で見た記述とは異なる。さらに、(36b)が容認されないことから、閩南語・客家語と台湾華語では、「yǒu/有」文によって述べられる未来予定の範囲や、共起しやすい動詞が異なるかもしれない。

<sup>10</sup> 台湾では、一定以上に強い台風が通過すると予想される際、政府機関の判断により、台風の通過地区が休業休校となる制度がある。この休暇のことを一般には「颱風假(台風休み)」と呼ばれている。

(36) a. <sup>??</sup>*Míngtiān yǒu xià yǔ ma?*

<sup>??</sup>明天 有 下 雨 嗎?

明日 [有] 降る 雨 Q

‘(intended for) 明日、雨が降る?’

b. <sup>???</sup>*Lǎobǎn míngtiān yǒu lái gōngsī ma?*

<sup>???</sup>老闆 明天 有 來 公司 嗎?

ボス 明日 [有] 来る 会社 Q

‘(intended for) 社長は明日、会社に来ることになっている?’

この節では、台湾華語では、発話時において確認できている未来の予定を述べるのに、「yǒu」文を用いる場合があることを見た。そして、「yǒu」文で述べられる未来の予定には、閩南語・客家語の先行研究の記述とは異なる特徴が見られることを示した。

## 5 結論と課題

本稿では、閩南語の先行研究で記述された「有」の時間的解釈のうちの「習慣」「結果状態」「未来予定」を中心として、先行研究の記述を参考に、台湾華語の「yǒu」文の時間的解釈について考察した。本稿の結論は次の通りである。

まず、「yǒu」文の習慣解釈について、頻度副詞が現れず「yǒu」のみで表される習慣は「属性」である。したがって本稿では、頻度副詞が現れる「yǒu」文で表される「反復」としての習慣とは区別するべきであると考えた。また本稿では、「yǒu」文で属性解釈が可能となる要因を動詞句の *telicity* に求めた先行研究の主張に対する反例を提示した。さらに、属性解釈の成立可否には、動詞句の表す事態が「異なる複数場面での生起が想定されやすいものかどうか」が関わっているということを主張する。

次に記述に関して、結果状態解釈と未来予定解釈について、台湾華語の先行研究では記述が見られなかったが、本稿では、台湾華語の「yǒu」文においてもこの二つの解釈が可能であることを、具体例とともに記述した。さらに、未来解釈の「yǒu」文の使用について、閩南語・客家語の記述にはなかった特徴や使用条件があることを記述した。

最後に、本稿では、「yǒu」をもつ文のみを扱ったが、なかには「yǒu」を外しても意味が大きく変わらないものと、意味を大きく変えずに他の表現と言い換えられるものがある。後者は、「yǒu」の機能とは何かという問題に直結しているが、前者に関しては、スタイルの差の問題にも関係すると考えられる。これらの問題の解明は今後の課題としたい。

## 略号一覧

1: 一人称、2: 二人称、3: 三人称、CL: 類別詞、EXP: 経験、NEG: 否定詞、PFV: 完了、PL: 複数、Q: 疑問助詞、SFP: 終助詞、SG: 単数

## 参考文献

- 有働彰子 (2009) 「「国語」教科書の中の「台湾国語」－台湾における「国語」規範の歴史」『東アジア学会』 11: 22-33.
- 遠藤雅裕 (1956) 「南方漢語のモダリティ標識「有」について：臺灣海陸客家語を中心に」『中國文學研究』 40: 89-113.
- 大河内康憲 (1985) 「量詞の個体化機能」『中国語学』 232: 1-13.
- 鄭雅云 (2019) 「台湾華語における助動詞「有」と「了」の用法の違いについて」『日本中国語学会第 69 回全国大会予稿集』, 302-306
- 黃宣範 (1993) 『語言, 社會與族群意識』台北：文鶴出版公司.
- Kubler, Cornelius C. (1985) *The Development of Mandarin in Taiwan: A Case Study of Language Contact*. Taipei: Student Book Co. Ltd.
- Li, C. N. & Thompson, S. A. (1981) *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.
- 刘丹青 (2002) 「汉语类指成分的语义属性和句法属性」『中国语文』 5: 411-422.
- 村上之伸 (1990) 「閩南語「有/無」と動詞の分類」『中国文化：研究と教育：漢文学会会報』 48: 1-15.
- 中嶋幹起 (1971) 「福建語における“有”“無”の語法範疇について」『アジア・アフリカ言語文化研究』 4: 75-85.
- Nedjalkov, Vladimir P. & Jaxontov, Sergej Je. (1988) The typology of resultative constructions. In Vladimir P. Nedjalkov (ed.), *Typology of resultative constructions*, 3-62. Amsterdam: John Benjamins.
- 台湾総督府 (編) (1931) 『台日大辞典 上巻』台湾総督府.
- 蔡雅雯 (2010) 「台湾華語 [有字句] 的語法及語義」政治大學華語文教學碩士學位學程學位論文.
- 曹逢甫 (1998) 「台湾閩南語中與時貌有關的語詞“有”、“Ø”和“啊”試析」『清華學報』 28-3: 299-334.
- 王育徳 (1957) 『台湾語常用語彙』東京：永和語学社.
- Wu, Jiun-Shiung & Zheng, Zhi-Ren. 2018. Toward a Unified Semantics for  $\bar{U}$  in  $\bar{U}$  + Situation in Taiwan Southern Min: A Modal-Aspectual Account. *CLSW 2018*: 408-422.

受理日 2020 年 4 月 15 日